

夏の気温上昇等により自動火災報知設備が 火災以外の室温上昇で作動する「非火災報」が発生しています



命を守る大切な設備です。
定期点検など、適切な維持管理をお願いします！



北区まちづくりキャラクターぼっぴい

札幌市北消防署から建物関係者の方へ大切なお知らせです。☎011-737-2100

自動火災報知設備は火災の熱や煙を感知して警報音等により建物内の人に異状を知らせる設備です

夏に自動火災報知設備の「非火災報」が起こりやすい日

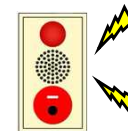
- ☒ 6月から8月にかけて、最高気温が33度を超える日
- ☒ 日差しが強く（雲が無く）、風が弱い日

なぜ、起きるの？ 止めることはできないの？

- ☒ 夏の日射により屋根等が過熱され、小屋裏等の温度が感知器の発報温度を超えること等が原因と考えられています。
- ☒ 温度上昇での作動は、設備としては正常な働きです。発報する箇所の温度が下がるのを待ちましょう。また、「火災ではないと断定できません」ので、発報箇所を確認しましょう。

01

If it works



周囲に煙や臭いがないかを確認し **119番通報**してください。
「非火災報」が何度も起こる場合は管理会社や消防設備業者に連絡して対応してください。
個人の判断で自動火災報知設備を停止させることはしないでください。

02

Countermeasure



小屋裏の感知器を「差動式スポット型2種防水型」もしくは「定温式スポット型1種防水型」に変更すると非火災報を減らせると考えられます。（定温式：公称作動温度70～75℃）

天井の点検口を開放し、こもった熱を換気しましょう。